

令和 6 年度 第 1 回恵庭市アイヌ施策推進委員会 議事録

場 所：恵庭市郷土資料館 研修室

日 時：令和 6 年 6 月 5 日（金）16:00～16:35

出席者：

（委 員）内田委員長、白幡副委員長、藤原委員、早川委員、笹川委員

（事務局）教育部 岩渕教育長、狩野部長、山口次長

郷土資料館 高野館長、長町主査、杉浦主事

■開会

<岩渕教育長> 開会の挨拶

<事務局> 委員長を内田委員、副委員長を白幡委員とする案を提示

<委員> 賛同

■議題

(1) 恵庭市アイヌ施策推進地域計画について

<事務局>

恵庭市アイヌ施策推進地域計画について説明。

<A 委員>

質問等がないため、次の議題へ進む。

(2) 令和 6 年度アイヌ政策推進交付金事業計画

①アイヌ政策推進交付金事業計画

②令和 6 年度事業について

③アイヌ文化マスター育成事業について

④アイヌ文化学習見学会事業について

⑤アイヌ文化講演会事業について

⑥ムックリ製作体験事業について

<事務局>

令和 6 年度実施の事業について説明。

意見・質問

<A 委員>

アイヌ文化に関わっているものとして、こういった事業を展開してもらえることはありがたい。アイヌ文化講演会では、昨年説明しきれなかった内容があるので、今年も機会がもらえありがたいと思う。今年の見学会では、ウポポイ、知里幸恵銀のしずく記念館、登別市郷土資料館に行くということ。知里幸恵と弟である知里真志保についても学んでほしい。

(3) アイヌ文化マスター育成事業の参加者の選考について

<事務局>

令和 6 年度アイヌ文化マスター育成事業の参加者について、採点結果を集計したものを提示。

意見・質問

<A 委員>

採点結果によると、この 6 名ということでよろしいか。

<事務局>

はい。

<B 委員>

F さんは既に 2 回参加しているが、繰り上がりとなって他の応募者になることは無いか。

<事務局>

得点数の結果、上位 6 名に入っており繰り上げ等は発生しない。

<A 委員>

今回で 3 回目となるため悩むが、文章はしっかりとしており点数としては高得点となる。委員の皆様はどう考えられるか。

<C 委員>

参加者には何回も事業に応募してもらいたいと思う。1 度の参加でアイヌ文化について理解は難しい。連続であっても参加したいと思うのであれば、この得点順位のまま選出してほしいと思う。

<D 委員>

ルール通りに採点された結果であるため、この結果で良いと考える。また、6 人のうち唯一経験者でもあるので、他の 5 人をまとめる役割も期待できると思う。

<A 委員>

F さん以外は初めての参加か。

<事務局>

はい。

<A 委員>

一番下の学年は小学校 4 年生で、小学生の参加者が多いので、F さんには D 委員のおっしゃったようにリーダーとしての役割も期待できると考える。C 委員、と D 委員の意見のとおり、採点結果から選出された 6 名で良いと思う。

こういった機会にアイヌ文化について興味を持つことで、将来研究者を目指すきっかけになるかもしれない。

(4) その他

<事務局>

候補者の選定について、6名の募集に対して11名の応募があった。今後も今回のように応募者が多い状況が続く場合、アイヌ文化マスター育成事業の授業回数を減らしてその分参加者を増やすのか、複数回アイヌ文化マスター育成事業を受けた方を対象として新たな活躍の場を設けられるような事業を始めるのか、あるいは今後郷土資料館の歴史や文化に関する各事業に興味や関心があるのかなどを踏まえて、今後の取り組みを検討させていただきたい。

<事務局>

次回の委員会は来年の2月末を考えている。

意見・質問

<A 委員>

昨年は落選者2人だったか。

<事務局>

はい。

<事務局>

今回は締切日に応募が殺到し、6名の定員に達した。そのため、2、3年程は参加者数等について分析し、事業の仕組みを検討したい。

<A 委員>

11名も募集があり、そのうち5名が落選しているのはもったいないという気持ちもある。今後検討してほしい。

<B 委員>

選考について、志望理由と作文の内容がオーバーラップしている志望者がいる。中には書き分けている子もいるが、作文についてはこちらである程度テーマを与えて書いてもらう方が、選びやすいと考える。現在認められているワープロについても、きちんと作文を書けているのか判断するためにも、手書きで原稿用紙指定に統一した方が応募者の条件がそろって良いと考える。また、ワープロで提出されると応募者本人が書いたのかわからない。手書きであれば、少なくとも本人が書いていることが保証されるため選考について判断しやすくなる。

<A 委員>

私も同意見である。事務局は検討してほしい。

■閉会